

## 【授業科目】細胞診断学演習Ⅱ(婦人科系) Practice of Diagnostic Cytology II (Gynecology)

| 担当教員                                       | 開講年次  | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験  | オフィスアワー | 教職員への授業公開  |
|--|---|------|-----|-----|------|---|---------|--|
| 白石泰三、澤田浩秀、矢納研二、伊藤英樹、岩井宗男、奥田容山、中村豊、平澤浩、矢野孝明 | 4年次前期   | 自由   | 3   | 135 | 演習   | あり  | 卷末掲載    | 可  |
| 授業概要<br>(内容と進め方)                           | 授業概要／細胞検査士養成課程の専門科目として、婦人科系の細胞診断について学修する科目である。子宮頸部、子宮体部、卵巣、胎盤から得られた検体を扱うため、関連する疾患の概要を学修し、各種腫瘍性疾患を中心とした細胞学的特徴についての知識を得ることにより、実際の診断に結び付けることを目的とする。腫瘍性疾患に限らず、HPVを含む感染症、ホルモン細胞診についても教授する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。課題に対するフィードバック方法／レポート提出を課した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。  |      |     |     |      |   |         |  |
| 授業の位置づけ                                    | 本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。   |      |     |     |      |   |         |  |
| 到達目標<br>(履修者が到達すべき目標)                      | ①子宮頸部疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。<br>②子宮体部疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。<br>③卵巣疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。<br>④絨毛性疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。<br>⑤ホルモン細胞診の特徴および細胞像について理解できる。  |      |     |     |      |   |         |  |
| 時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回の授業に対する予習、復習を必ず行うこと。</li> <li>・ 本講義で学んだ知識は、実際のスクリーニング、診断に必要であるため、標本をしっかりと観察し、さまざまな細胞について十分な鑑別できなければならない。</li> <li>・ 1回の講義または実習につき、60分程度の予習および180分程度の復習を行うこと。</li> </ul> ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。   |      |     |     |      |   |         |  |
| 授業計画                                       | 第1～2回 婦人科系臓器の正常構造<br>第3～4回 婦人科領域の感染症、外陰部疾患<br>第5～6回 子宮頸部疾患の臨床および病理、コルポスコピー<br>第7～8回 子宮頸部疾患の病理組織と細胞像<br>第9～10回 子宮頸部疾患の細胞診演習①<br>第11～12回 子宮頸部疾患の細胞診演習②<br>第13～14回 子宮頸部疾患の細胞診演習③<br>第15～16回 子宮頸部疾患の細胞診演習④<br>第17～18回 子宮頸部疾患の細胞診演習⑤<br>第19～20回 子宮体部疾患の臨床および病理<br>第21～22回 子宮体部疾患の病理組織と細胞像<br>第23～24回 子宮体部疾患の細胞診演習①<br>第25～26回 子宮体部疾患の細胞診演習②<br>第27～28回 絨毛性疾患、卵巣腫瘍の病理組織と細胞像<br>第29～30回 絨毛性疾患の細胞診演習<br>第31～32回 卵巣腫瘍の細胞診演習<br>第33～34回 ホルモンと細胞像の変化 |      |     |     |      |   |         | 澤田<br>白石<br>矢納<br>白石<br>奥田<br>奥田<br>伊藤<br>矢野<br>澤田<br>矢納<br>白石<br>岩井<br>平澤<br>白石<br>中村<br>中村<br>中村 |
| 評価方法<br>評価基準                               | 成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。<br>授業態度 20% 学期末試験 80%   |      |     |     |      |   |         |  |
| 教科書  | 『細胞診を学ぶ人のために 第6版』医学書院、<br>『スタンダード細胞診 第4版』医歯薬出版、<br>『細胞検査士細胞像試験問題集 第2版』医歯薬出版   |      |     |     | 参考書等 | 『基礎から学ぶ細胞診のすすめ方 第4版』近代出版、<br>『細胞診鑑別アトラス』医歯薬出版 |         |  |
| 関係する他の科目                                   | 解剖組織学、病理学、血液学、病理検査学、臨床細胞学総論Ⅰ、臨床細胞学総論Ⅱ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱの基礎知識を必要とするため、これらの科目を十分学修する必要がある。  |      |     |     |      |   |         |  |
| 学生へのメッセージ                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細胞検査士養成過程を選考した学生にとっての必須科目である。</li> <li>・ 細胞検査士認定試験に合格することを覚悟し、十分な学修を行うこと。</li> </ul>   |      |     |     |      |   |         |  |